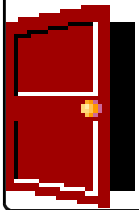


令和5年度《昨年度に続き、今年度も読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



読書活動への扉を開く！

No 1

桑村小学校令和5年4月10日 文責 渡邊

令和5年2月4日(土)に、「花咲かおやじの会」の皆さんが中心となって行ってくださった桜の樹の剪定作業のおかげで、今年もきれいな花々が校舎の周りに咲き誇っています。美しい花を咲かせるには、人間による丁寧な作業が必要となります。今年の桜の花が美しく咲いたのも、花咲かおやじの会の皆さん、学校応援団の皆さん、保護者、子供たち、そして教職員が力を合わせて剪定作業に取り組んだ表れであると思います。



さて、令和5年度も昨年度に引き続き、学校と家庭とが連携 **【開花を迎えた桜の木々】** し、読書活動を推進する中、子供たちの「感性」を育んでいきたいと思います。子供たちの「感性」の花はいつ開くのかは分かりませんが、豊かな感性が伸張されることを期待し、共に取り組んでいきたいと考えます。どうかよろしくお願いします。

さて、2006年8月10日の『教育新聞』(教育新聞社)に、「感性と感受性は同じではない。深い思考を経て意味を紡ぎ出す」のタイトルのもと、次のような記事が載っていました。

「(前略)日本語大辞典(講談社)によると『感受性』は『外界の刺激を印象として心に感じ取る能力』、『感性』は『心理学で外界の刺激を受けてそれに対応する感覚内容をまとめる働き。哲学で悟性ととともに認識能力を形づくる心の働き』とある。(中略)

豊かな『感受性』を育むのはもちろん大切だが、『感性』を『感覚』の領域に矮小化するのはいだけない。人やもの、出来事、作品、景観などに会って何事かを感じ取り(感受=入力)、それを理性が咀嚼し、意味のある認識を形づくる。つまり、深い思考力を経て意味を紡ぎ出す。しかも、それを適切な形で表現(出力)できて初めて、確かな『感性』と呼べるのだ。」

桑村小学校では、学校教育目標を「夢に向かい 感性を育む 桑っ子」と設定しました。子供たちの有する「感性」を体験活動と読書活動をつなげて育成していきたいと考えます。

最後に、今年度も保護者の皆さんと双方向的な情報交換をしたいと考えます。感想や意見を学校までお寄せいただきたく思います。ご理解、ご協力をお願いします。

※次号から読書通信『読書活動への扉を開く』は紙媒体での送付はありません。桑村小学校ホームページにアップしますのでご覧いただきたく思います。また、感想や意見は、別紙の感想カードをご利用し学校までお子さんを通して届けてくださるようお願いいたします。

----- 切 り 取 り 線 -----

「読書活動の扉を開く」(4月10日号)を読んでの感想

()年()

桑村小学校読書通信『読書活動への扉を開く』感想カード

----- 切 り 取 り 線 -----

「読書活動の扉を開く」(月 日号)を読んでの感想
()年()

----- 切 り 取 り 線 -----

「読書活動の扉を開く」(月 日号)を読んでの感想
()年()

----- 切 り 取 り 線 -----

「読書活動の扉を開く」(月 日号)を読んでの感想
()年()

----- 切 り 取 り 線 -----

「読書活動の扉を開く」(月 日号)を読んでの感想
()年()

保護者の皆様方へ

今年度も読書通信を発行し、読書活動の楽しさと大切さをお伝えしていきたいと思
います。ご家庭からの意見や感想をお待ちしています。ご自由に切り取ってお使いいた
だきたいと思ひます。よろしくお願ひします。 桑村小学校長 渡邊 衛